



広瀬浩二郎 ひろせ こうじろう(国立民族学博物館准教授)

自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。

1967年、東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。01年より国立民族学博物館に勤務。現在はグローバル現象研究部・准教授。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組み、「さわる」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。主な著書に『さわる文化への招待』(世界思想社)、『身体でみる異文化』(臨川書店)、『ひとが優しい博物館』(編著、青弓社)、『知のバリアフリー』(共編著、京都大学学術出版会)などがある。

澤村実希 さわむら みき

(社会福祉法人 日本点字図書館自立支援室所属)

2017年夏、視覚障害者が白杖を使って安全な歩行ができるよう指導する「歩行訓練士」を目指して大阪で「あつく」勉強。音、におい、段差、点字ブロック、信号などなど、街のあちこちが気になっています。今回は広瀬さんの助手として皆さんの「無視覚流まちあるき」をお手伝いします。

斎藤弘美 さいとう ひろみ

(ゆう・えんLLC代表/高田瞽女の文化を保存・発信する会顧問)

2010年より「もんてん瞽女プロジェクト」を企画運営。これが縁で上越高田の瞽女ミュージアム開館に携わるなど瞽女文化の保存・発信に努める。また東京の歴史散歩「お江戸まちあるき」を主催し、隠れた歴史の痕跡を発見しながらのまちあるきは56回を数える。

第一部「読む・聴く・感じる～誰が、何を伝えるのか」

今年は点字入りのチラシを作成・配布しました。チラシにはさまざまな視覚情報が掲載されています。ところが点字でチラシに盛り込むことができる情報はごくわずか。点字でチラシを作る作業は、決められたスペースにピースをはめ込むパズルのようなものでした。第1部では、触覚文字である点字の特徴を学び、実際に点字を書いてみましょう。点字の世界に触れることで、新しい表現方法を発見できるかもしれません。



第2部 ワークショップ「足印・鼻印・耳印——『無視覚流まちあるき』のすすめ」

単独歩行する視覚障害者は、白杖を使って、さまざまな触覚情報、聴覚情報を得ています。見えない人が一人で「まち」を歩くためには、工夫と努力が必要です。一方、「視覚を使わない」白杖歩行は、聴覚・触覚など、全身の感覚を総動員する「探検」のようなもの。工夫と努力は人を賢くし、探検は人に好奇心と行動力をもたらします。



ワークショップでは、まず最初に視覚障害者が何を頼りとして「まち」を歩いているのか、ちょっと笑える失敗談などを織り込みながら、視覚障害者の単独歩行のポイントの指導を受けたあと、みんなで両国の「まち」を散策し、無視覚流でまちあるきを楽しみます。一緒に、目には見えない「まち」の魅力を発見する「探検」に出かけましょう!

2017年11月5日(日)

第1部 講座 10:30～12:00 ※開場30分前

第2部 ワークショップ 14:00～17:00 ※開場30分前

料金 (定員50名・要予約)

午前の部 一般1,300円/介助者・学生・門天会員1,000円

午後の部 一般1,300円/介助者・学生・門天会員1,000円

通し券 2,000円

●ご予約・お問合せ 一般社団法人もんてん(両国門天ホール)

Tel・Fax: 03-6666-9491 (電話は平日13～17時)

メール ticket@monten.jp

http://www.monten.jp/20171105

両国門天ホール

墨田区両国1-3-9 ムラサビル1-1階

JR総武線「両国駅」西口から徒歩5分
大江戸線「両国駅」A4、5出口から徒歩10分
都営浅草線「東日本橋駅」から徒歩10分

